

イスラム世界から見たガレノスの作品

後 藤 香 織

新島学園短期大学紀要 43号
(別刷)

2022年3月31日発行

〈研究ノート〉

イスラム世界から見たガレノスの作品

後藤香織

Galen's work of the viewing from the Islamic world

Kaori GOTO

*Niijima Gakuen Junior College
Takasaki, Gunma 370-0068, Japan*

Abstract

The city of Bergama, the birthplace of Galen, published, "TABİP-FİLOZOF BERGAMALI GALENOS (Özcan AKDAĞ)" describes the life and works of Galen in Turkey. Galen wrote his works with Greek, and those works were translated into Arabic, and Latin. It was difficult for get the information in Arabic-speaking countries, but I was able to read the information on Galen written in Turkish. It's also found that there was an Arabic manuscript in the Istanbul library, which was not lost in the war. It is also characteristic that information in the Islamic world, such as the appearance of Galen and the possibility of Christian. It is different from the conventional wisdom in Europe, the United States and Japan. Although, I am pleased that everything written by Galen and about Galen will be revealed.

医学者ガレノス生誕の街ベルガマのトルコ・ベルガマ市によって発行された「医学-哲学 ベルガマ人ガレノス」は、ガレノスの生涯と作品について解説したトルコ語による本です。ガレノスは作品をギリシャ語で書き、それらの作品はアラビア語に翻訳され、ラテン語に翻訳された歴史があります。今までアラビア語圏でのガレノスの情報を得るのはとても難しかったのですが、トルコ語で書かれたガレノスの情報を読むことができました。さらにイスタンブールのスレイマニエ図書館およびアヤソフィア図書館にはアラビア語のガレノス写本があることもわかりました。また、この本によるとガレノスの外見やクリスチャンの可能性など、イスラム世界の情報が欧米の常識とは異なるのも特徴です。いずれにせよ、ガレノスが書いた作品とガレノスについて明らかになっていくことを嬉しく思います。

1. 緒言

現在のトルコ・ベルガマ生まれのガレノスの作品は、彼の死後も読まれ、教育にも使われてきました。ガレノスの作品は、アレキサンドリアの医学校でも使用され、その後イスラム教徒がエジプトを征服したのちもシリア語、ギリシャ語、ヒンディー語などに翻訳され、アラビア語にも翻訳されて提供され続け



ました。ガレノスの作品は、イスラム社会の医学や科学の発達に貢献をしました。その後ラテン語に翻訳されてヨーロッパで使われるようになりました。2021年にトルコ・イズミル県ベルガマ市が発行した「TABİP-FİLOZOF BERGAMALI GALENOS」(著者 Özcan Akdağ Erciyes大学神学部 写真中央)には、ガレノスやガレノスの作品について主にアラビア語圏とトルコの研究者からの認識を中心に述べられています。それらの内容をトルコ語から日本語に翻訳して、研究ノートにまとめ直しました。Özcan AKDAĞ “TABİP-FİLOZOF BERGAMALI GALENOS” 2021, Kayseri, I S B N 978-605-7785-54-1

2. BERGAMALI GALENOSガレノスの生涯と作品

2-1. BERGAMALI GALENOSにおけるガレノスの生涯についての概要

イスラム世界ではジャーヌースCâlinûsとして知られるガレノスは、今日イズミル県のベルガマで生まれました。ガレノスの生年月日についてはさまざまな説があります。イブン・アビー・ウサイビアİbn Ebî Usaybiaによれば、トラヤヌス・ローマ皇帝(98-117)の治世10年目に生まれました。これによると、ガレノスは西暦108年生まれになりますが、現代の研究によると、ガレノスは130年代に生まれました(Kutluerら)。イブン・ジュルジュールİbn Cülcülによると、ガレノスは、マルマラ海の半島であるイスタンブールの東にある小さな都市、ベルガマで生まれ育ち、この地域に住む人々はゴート族のアンダルシア侵攻の結果としてそこから移住し、アナトリアに定住しました。一方、イブン・ファティキİbn Fâtikによると、ガレノスは肌が黒く、体型が美しいとのこと。彼は広い肩と体、長い指と美しい髪を持ち、歌い、音楽を聴いたり、読んだりするのが好きで、温厚で笑顔。彼はいつも身なりが良く、いい匂いがする人と述べています。ガレノスという名前は、「落ち着いた」を意味するギリシャ語に由来しているため、アラビア語ではFazılと翻訳されました。

建築家だったガレノスの父は、15歳になるまで彼に算術と幾何学を教え、その後、論理と医学を研究するように彼に指示しました。ガレノスは「私の父は、私の15年目

の終わりまで、彼の知識に従って、幾何学、数論幾何学、その他の数学の分野で私を教育することをやめませんでした。後に、父は私が哲学だけを学ぶべきだと考え論理を学ぶように導きました。それから彼は私に医学を勉強するように勧める夢を見ました。私はその時17歳でした。」と述べています。イブン・ファティキは「ガレノスの父親は息子の面倒を見て、多額のお金を費やし、教師に高額の賃金を支払い、教師を遠くの都市から連れてきました。父はエンジニア、農業者、建築家で、ガレノスの会計士でした」と述べています。20代で父親を亡くしたガレノスは、この出来事の後、医学の知識を向上させるためにさまざまな場所を旅しました。彼はイズミルに行き、解剖学者のペロプスからレッスンを受けました。その後、彼はコリントに行き、ペロプスの教師でクイントゥスの生徒であるヌミシアヌスから授業を受けました。そして最後に彼はアレクサンドリアに行き、そこで古代エジプト医学を習得・実践しました (Ībn Fātik)。

ガレノスの教育と旅行に関して、イブン・ファティキは次のように記録しています。「ガレノスは医学を学ぶためにアテネ、ローマ、アレクサンドリアなどの都市に旅行しました。ガレノスはアルミスから医学を学びましたが、既に父親とエンジニアのグループから幾何学、言語、文法などの科学を学びました。彼はまた、クレオパトラという女性から医学、特に婦人科疾患の治療において、彼女から多くの治療法を学びました。ガレノスはキプロスに行き、コルコトール (酸化銅) 鉱山を見に行きました。同様に、ガレノスはリムノス島に封印された泥を見るために旅行しました。このように、彼は自分の目でこれらすべての出来事を目撃し、それらを個人的に見て確認しました。再びガレノスはエジプトに行き、しばらくそこにとどまりました。したがって、彼はそこで使用されている薬、特にアスユットの町のアヘンとその用量を調べました。ガレノスはここを去り、故郷に戻るためにダマスカスに行きました。しかし、彼は途中で病気になり、エジプトの最果ての紅海沿いの都市、アルファラマで亡くなりました」 (Ibn Fātik, Ībn Ebī Usaybia)。

ガレノスは経験を積んだ後、ローマに行き、研究を続けました。ローマで皇帝の次男コモドゥスの主治医を務めたガレノスは、医学と哲学について講義し、多くの作品を書きました。解剖学に関する彼の研究の中で、ガレノスは、アントニヌス帝治世の初めに最初にローマに来たと述べています。その後、ガレノスはローマの指導者ポエトスのために解剖学に関する本を書きました。イズミルに住んでいる間、ガレノスはまた、クイントゥスの教師であったペロプスとの解剖に関する作品を書きました。その後、ガレノスは別の有名な教師から授業を受けるためにコリントスに行きました。この人はアフィシアヌスとして知られているクイントゥスの弟子で、後にガレノスはクイントゥスとヌミシアヌスとヌミシアヌスの学生のグループがあることを聞いて、

彼はアレクサンドリアに行きました。そこで教育を受けた後、彼は故郷のペルガモンに戻りました。しばらくして、ガレノスは再びローマに行き、ポエトスの前で解剖を行いました。著名なメシャイ（アリストテレス学派）の一人であるアフロディシヤス・イステンデルとローマ総督のセルギウス・ブルがここにいました。（İbn Fâtik、İbn Ebî Usaybia）。

ガレノスに関する興味深い主張があります。ベヒヤキBehyakiの著書「Mesâribi't-tecârib ve gavâribi'l-gavârib（経験の器ともっと素晴らしいものたち）」には、次のように記されています。「ガレノスは妹の息子パヴロスをイエスの使徒に送って、ガレノスがもう弱く、高齢であることを知らせました。ガレノスはイエスを信じ、妹の息子パヴロスがイエスに同行することを約束しました。」。ガレノスがクリスチャンであったといい、ガレノスはイエスから約200年後に生きたと述べています（İbn Ebî Usaybia）。ガレノスの作品にはユダヤ人とキリスト教徒についてのいくつかの意見が含まれています。ガレノスは、「ヒポクラテスの解剖学の見解」の第4章や「生物の臓器の利点について」で、モーセと巡礼者について述べています。（İbn Ebî Usaybia）。

ガレノスの作品の多くは、191年のローマ大火で焼失しました。ガレノスは、彼の著書「悲しみを消すため」の中で、彼の本と貴重品のほとんどがローマの倉庫にあり大火で焼かれたと述べています。燃やされた本のいくつかはアリストテレスとアナクサゴラスとプラトンの写本であり、彼は修正を行い、それらのほとんどを修正するまで遠くの都市に旅行しました（İbnFâtik、İbn Ebî Usaybia）。

さて、近代になってガレノスの作品は、1821年から1833年の間に全22巻、古代ギリシャ語とラテン語の翻訳とともにキューンKühnによって出版されました。これらはガレノスによって書かれた作品の3分の2であり、他のものは失われています（Uzel）。ガレノスの科学と医学に関する研究のほとんどは生き残っていますが、残念ながら、哲学に関する彼の研究のほとんどは残っていません（Singer）。

ガレノスはヒポクラテスの忘れられた見解と作品を復活させ、コーパスヒポクラテスCorpus Hippocraticumは医学の基本的な本として受け入れられました。コーパスヒポクラテスの価値を高める作品を書くことに加えて、ガレノスはヒポクラテスの作品の多くについての解説も書きました（Uzel）。この意味で、ガレノスは医学史上重要な人物であると言えます。実際のところ、アンダルシアの医師であり医学の歴史家であるイブン・ジュルジュは、医師と医師の伝記に関する研究で、「ガレノスは医学の鍵です。ガレノスがいなかったとしたら、医学の科学は完全に一掃されていただろう」（İbnCülcül）。同様に、歴史家のメスウーディー Mesudî（956）は、「ガレノスは医者王であり指導者である」（al-Mesudî）というフレーズを述べていますが、別の

歴史家で作家のイブヌル・クフティ Ibnu'l Kiftiは、「ガレノスは、彼自身の時代の医師の指導者であり、自然科学の先駆者でした。誰も自然科学を知りませんでした。アリストテレス後のヒポクラテスやガレノスよりも優れています。」(ジェマルッディン・アリ・ビン・ユスフ・ビン・イブラヒム Cemaluddin Ali b.Yusuf b. İbrahim)と述べています。

2-2. BERGAMALI GALENOSにおけるガレノスの作品

ガレノスは医学と哲学の両方について多くの作品を書きました。これらは次のとおりです。(日本で一般的に翻訳されている題名とは異なる場合があります。このリストはコックスCoxeのものに他のものが付け加えられています。「悲しみを消すため」、「苦痛の回避」はこのリストにはありません。また、現在真作ではないと考えられているものも原著通りにリストにあります。)

入門書

1. 芸術と科学を称えることに関する講話。
2. 徳のある医師は哲学者でなければならない：この作品では、ガレノスは医師が哲学と論理を知っているべきであるという事実に注意を向けています。作品の中で、ヒポクラテスを称賛するガレノスは、医学の分野で彼のような師は他にいないと述べ、また、医学を富を得るため使用している医師を批判しています。この作品はフナイン・イブン・イスハーク Ḥunayn ibn 'Ishāq によってアラビア語に翻訳され、作品の写本はスレイマニエSüleymaniye図書館（イスタンブール県ファーティヒ市）にあります。
3. 根拠のない言葉について：4つの部分からなる作品です。
4. 身体的属性が非実体的であるかどうかについて：この作品は9つの章で構成されています。ガレノスはストア派のすべての身体的資質が物質的であるという主張に反論しようとしています。
5. 私の作品について：この作品では、ガレノスは、ローマに到着したときに書いた作品から、解剖学、診断、治療について書いた作品をリストしています。
6. 私の作品の順番について：作品にはガレノスの作品の順番が含まれています。
7. 医学の科学・芸術について：この研究では、ガレノスは3つの学派、すなわち比較（合理主義者）、経験主義者、方法論主義者についての情報を提供しました。ガレノスは30代にこの作品を書き、初学者には最初にそれを読むことを勧めました。フナイン・イブン・イスハークによってアラビア語に翻訳され、作品のアラビア語写本はスレイマニエSüleymaniye図書館にあります。
8. 最高の学派について：この作品では、ガレノスはどの医学派が最高であるかを、

各学派が基づいている医学の原則を考慮して、それらが正しいかどうかを評価しました。

9. 最良の教育方法について：名前が示すように、この研究は教育で使用される最良の方法に焦点を合わせています。
10. 医術について：この作品は、ガレノスが学生のパトロフィロスに宛てた手紙で構成されています。しかし、この人物が実際に存在するかどうかは定かではありません。
11. 医学的定義について：この作品では、ガレノスは科学、芸術、医学、学校などの概念の定義を含んでいます。
12. 医学入門：この作品では、医学の芸術とその部分の定義が議論されています。また、病気や病気の症状などの問題にも触れています。この作品はフナイン・イブン・イスハークによってEs-sineatu's-sahire (医学の小品)としてアラビア語に翻訳され、作品の写本はSüleymaniye図書館にあります。
13. 病気の症候をどう見つけるか：症候の問題を扱います。
14. 医学の芸術：この作品は、医学とは何か、医学の定義についての議論を扱っており、作品はトルコ語に翻訳されて出版されました。
15. 経験医学：経験医学に関するこの作品は、ギリシャ語版もラテン語版も残っていません。この作品の唯一のコピーは、アラビア語でアヤソフィア図書館の原稿番号3725にあります。フナイン・イブン・イスハークによって古代ギリシャ語からシリア語に翻訳されました。また、フナインの学生であるヒュベイスHubeysによってシリア語からアラビア語に翻訳されました。
16. 内臓の利点について：唯物論者によると、自然界には目的がありません。しかし、ガレノスによれば、自然には目的があります。
17. 経験主義について：名前が示すように、この作品では、ガレノスは医学の1つである経験主義学派の歴史を扱っています。

生理学と解剖学に関する作品

1. 元素について：この作品では、ガレノスは人間の性質がどの要素で構成されているかという問題を扱っています。古代ギリシャの思想から今日まで多くの思想家が答えを見つけようとした基本的な問いの一つです。この作品はKitabül-üstükussat ala Ra'yi Bokratと呼ばれフナインによってアラビア語に翻訳され、アラビア語写本はSüleymaniye図書館にあります。
2. ガレノスによるヒポクラテス「人間の性質について」に関する2つの解説：この作品は、ヒポクラテスが人間について書いた作品とガレノスによって作成された2

つの解説で構成されています。ここでは、自然を構成する4つの要素と、人間の血液、痰、黄色い胆汁、黒い胆汁を構成する4つの気質、およびそれらのバランスが病気と健康に及ぼす影響について説明します。さらに、ガレノスはこの作品で人体の血管についても評価しています。

3. 黒胆汁について：人体を構成する4つの気質の1つである黒胆汁の主題を扱いました。
4. 最高の体の構造について：この作品では、ガレノスは最高の構造を持つ体の性質について述べました。
5. 体の習慣について：この作品は前の作品の続きで、ガレノスは習慣が何であるかを説明し、それが良いか悪いかにかかわらず、体の一定の安定した状態について述べました。
6. 骨について：この作品は医学の初心者のために書かれており、ここでは人体の骨とそれらの相互関係を扱っています。ここで、ガレノスは人体に見られる骨の性質について簡潔に説明し、骨格系と小骨の構造についての情報を提供しました。
7. 筋肉の解剖について：この作品では、ガレノスは静脈、動脈、神経を調べます。ガレノスは、筋肉に関する研究のほとんどが間違っているといますが、この主題に関するマリヌスの研究は正しく、信頼できると述べました。
8. 神経の解剖について：神経は、脳と脊髄から全身に広がる運動と感覚の器官として定義されています。脳室や脳神経、それらの分布とそれらの下位区分との繋がりを扱いました。
9. 静脈と動脈の解剖について：この作品では、ガレノスがサルの体に基づいた静脈と動脈の構造に関する情報を提供し木の幹のように表現し血管についての考えを与えました。静脈は、木の幹の枝のように、腸や体の他の部分に広がります。
10. 血液は動脈に含まれていますか？：血液は動脈にないという見方をしているエリシトラトゥスや他の人々とは異なり、ガレノスは血液が動脈にあると考えています。
11. 解剖学に関する研究：この作品は16の章で構成されています。しかし、最初の9つの部分は今日まで生き残っています。ガレノスは、人間と類人猿の骨格構造、神経、動脈の間に類似性があると主張しています。ガレノスは、治療中に遭遇した状況と剖検したサルとの類似点に気づき、人間と類人猿の体には類似点があると述べました。ガレノスは人体の筋肉の知識がいかに重要であるか、筋肉と靭帯、手と手のひらの神経と筋肉と動脈、心臓、肺、動脈、肋骨、横隔膜、および関連する筋肉に関して書かれています。生きている動物の解剖がいかに重要であるか、そして得られた臓器に関する情報は、死んだ動物の解剖から得られた情報よりも価値があることが指摘されています。

12. 子宮の解剖について：この作品は12の章で構成されています。
13. 嗅覚器官について：鼻は嗅覚の症状ではなく、嗅覚の導管としてのみ機能し、匂いの感覚は奥で感知すると述べています。
14. 人体によるさまざまな臓器について：この作品は17の章で構成されています。なぜ人間が直立した存在であるのかという問題を扱い、胃や肝臓などの臓器、腎臓、栄養、心臓と肺の栄養、頭と頸に発生する病気の治療、脳、神経、血管、視覚器官、耳、舌などを述べています。
15. 呼吸の利点について：「呼吸の用途は何ですか？」で始まり、呼吸は生命の基本であると述べています。呼吸は胃や脳の働きよりも重要で、他の臓器の活動に影響を与えると述べています。
16. 呼吸の原因について：呼吸についての論考です。
17. 脈拍について：脈拍の目的は、熱を保存し、活力を体のすべての器官に伝えることです。
18. 自然の力の存在について：器官は、自分に適したものを引き付けますが、合わないものを追い出すということについて論じています。
19. プラトンとヒポクラテスの教義について：この作品は9つの章で構成されており、アリストテレス、エラシストラトス、プラクサゴラス、クリュシッポス、ストア派などの初期の思想家のさまざまな見解に対する論考が含まれています。
20. 自然の力について：自然、生命力、衝動性の3つのタイプがあります。自然の力は肝臓に関連しており、静脈を介して体全体に分散しています。一方、生命力は心臓に関連しており、動脈を介して体全体に広がります。原動力は、神経を介して体全体に広がる脳に関連しています。ガレノスによれば、植物には原動力がありません。自発的および感覚的な動きは動物に特有のものです。
21. 筋肉の動きについて：この作品は2つの部分で構成されています。ここでは、ガレノスは自発的な動きの源として見られる筋肉と、神経、脊髄、脳との関係を扱っています。
22. 胸郭と肺の動きについて：この短いエッセイは、胸郭の動きに合わせて肺が動き、胸郭が動かない限り、肺には動きがありません。
23. 精神の質の体の気質への依存について：この作品は形而上学のおよび現象学的傾向を示しているため、この作品は非常に興味深いものです。ガレノスは経験に基づいて、魂の性格は体の気質に依存していると考え、これを明らかにしようとします。
24. 胎児の形成について：胎児の形成に関する正確な情報は、ヒポクラテスによって明らかにされたと述べています。
25. 精子について：この作品は2つの部分で構成されており、ヒポクラテスやアリス

トテレスなどの精子について書かれています。胎児の形成には男性の精子と女性の精子が必要だと述べています。

26. 生物の器官が瞬時に形成されるかどうかについて：名前が示すように、この作品は、生物のすべての器官が同時に形成されるか、特定の順序で形成されるかを扱っています。ガレノスは、臓器がすべて同時に形成されるのではなく、特定の順序で発生するという見解を述べています。生物の器官は特定のプロセスを経て形成されます。
27. 子宮内に形成された物体が生きているかどうか：この作品はガレノスによるものとされていますが、確証はありません。
28. 誕生前7か月について：ガレノスは妊娠7か月(出産前7か月の意味)を調べ、ヒポクラテスの見解について述べました。この作品は、フナインによってアラビア語に翻訳され、写本は、スレイマニエ図書館にあります。
29. 精液について：この研究では、女性と男性の種子がどのように形成されるかという問題を扱いました。
30. 比較解剖学：この研究では、ガレノスは豚と人間の解剖学を比較して調べました。
31. 生物の解剖学について：この作品では、身体は単純なものと複合的なものの2つの部分に分けられ、これらの部分が議論されています。
32. 目の解剖学について：この作品は、目の解剖学を要約した作品です。
33. 女性の謎について：ガレノスのものと考えられているこの作品は、フナインによってアラビア語に翻訳されました。作品のアラビア語写本はスレイマニエ図書館にあります。
34. 男性の謎について：ガレノスのものと考えられているこの作品はフナインによってアラビア語に翻訳されました。作品のアラビア語写本はスレイマニエ図書館にあります。

衛生に関する著作

1. ヒポクラテスの宇宙、空気、水に関する実験の解説：空気の気質、空などの人体と健康への影響についての解説。
2. 食品の力と能力について：この作品は3つの部分で構成され、当時知られている果物や野菜、肉、牛乳、卵などの動物食品、および牛やイノシシなどの動物の肉について説明されています。
3. 良い水と悪い水について：この研究では、食物の水やジュースが体の気質に及ぼす影響について論じています。
4. ヒポクラテスの健康的な食事についての解説：健康的な生活に適した食事について

て述べました。

5. 食事療法の決定について：さまざまな病気に適用されるべき食事について、体の気質を和らげる方法を用い、脾臓の肥大、肝硬変、痛風などの病気の治療に使用される食事療法について書かれています。
6. 大麦水または挽割麦について：4元素に関して疾患の治療に使用される大麦水に関連しています。大麦水は単なる飲料ではなく、固形食品の消化に貢献します。ここで、大麦水がどのように準備されるかについての情報を提供しました。
7. 5つの動きを使った運動：体を動かすのに最も理想的な運動について。
8. 精神疾患の治療と診断について：クリシッポス、アリストテレス、プラトンなどの多くの思想家や哲学者が精神疾患の治療に関する研究を書いていて、そこにはいくつかの間違いが含まれていると述べています。
9. 健康の保護について：この作品は6冊の章で構成されています。老後も健康を維持するための推奨事項が含まれています。健康とは、体の自然な状態を維持すること、マッサージの方法とエクササイズ、痛風や腎臓結石を持つ人々のためにコショウと他のものと蜂蜜の混合物から調製された飲み物、パンの性質と品質、そしてミルクの使用についての情報、老年期の腸や尿の問題に関連する病気とそれらに関連する薬についても書いています。
10. 健康には薬または運動が重要なのか：食事と運動と健康の維持との間に密接な関係があることを示し、健康、動き、美しさは体の最高の健康状態であり、これらは空気、運動、休息、動き、飲食などと密接であると述べました。

病気の原因に関する研究

1. 病気の種類について：病気と健康が何であるかを定義し、病気を単純な病気と複雑な病気の2つに分けて、複雑な病気は単純な病気の組み合わせで構成されていると述べています。
2. 病気の原因について：名前が示すように、それは微量の病気の原因を調べます。質と量の両方の点で、熱、寒さ、そして食べ物はいくつかの病気を引き起こす可能性があります。混雑、湿気、乾燥は複合疾患を引き起こす要因です。
3. 症状の種類について：症状の中には、体や臓器の動きに見られるものもあれば、便や排泄機能に見られるものもあります。症状は、視覚、嗅覚、味覚、触覚の4つの方法で理解をします。
4. 症状の原因について：最初の章では、ガレノスは視覚、嗅覚、聴覚などの感覚で病気の原因を扱います。第二部では、麻痺、けいれん、かゆみ、こわばり、くしゃみ、咳などの症状の原因を扱います。第3部では、身体の自然な機能と症状の原因

を調べます。

5. 熱の種類について：この作品は2章で構成されています。研究では、ガレノスは熱の種類とそれらを区別する原因と症状、短期および長期の熱について述べました。
6. 障害について：この作品では、ガレノスは、臓器、全身、およびシステムで発生する障害と不規則性を扱います。
7. 衰弱の病気について：老化の原因を扱い、これを生命の火の弱体化と見なすことに反対しています。
8. 失神について：この作品は、失神に関するヒポクラテスの見解についての解説です。
9. 震え、動悸、痙攣、硬直について：プロクサゴラスの意見が間違っていると考えて著述しました。
10. 呼吸不全について：この作品は3冊の本で構成され呼吸の主題を扱っており、それは速い、遅い、深い、不規則など呼吸のタイプに焦点を当てています。
11. 採血について：この研究では、ガレノスは、採血に関するストア派の医師（ヘラフィラスやエラシストラトスなど）などの見解を評価し、反対しました。
12. 異常な腫れについて：全身またはその臓器に発生する腫れは、臓器自体またはその部分に流入する過剰な水分によって引き起こされると述べています。
13. 心配される病気の段階：この研究では、ガレノスは病気の段階を示しました。
14. 病気の段階：この本は前の続きです。病気には、発症、増加、ピーク、減少の4つの段階があります。
15. 病気の秩序について：この作品がガレノスのものであるかどうかは議論の余地があります。医学の初心者にとって非常に役立つこの作品は、病気とその症状の体系的な要約です。
16. ヒポクラテスのエピソードに関する解説：この作品は、ヒポクラテスの本に書いた解説です。

徴候学

1. 病気の臓器に関する6冊の本：この作品では、ガレノスは病気の臓器に関する知識の重要性と情報を得るための解剖の必要性に注意を向けています。
2. 初心者のための脈拍の要約：学生向けに書かれたこの作品は、脈拍が体に及ぼす影響を扱っています。
3. 脈拍の違いについて：4つの章からなる研究で、ガレノスは脈拍のさまざまな定義について議論し、評価しています。
4. 脈拍の知識について：この作品も4つの章で構成され、ガレノスは脈拍に関する

情報を取得しながら動脈に手を置く方法を説明します。さらに、中程度および遅い脈にも注意を向けます。

5. 脈拍の原因について：この作品は4つの部分で構成され、体温、年齢、情熱、飲酒、興奮を脈拍に影響を与える要因と見なしています。
6. 脈拍に基づく事前診断について：大小の脈拍、速い脈拍、遅い脈拍に触れています。
7. 尿について：気質の主題に関する解説の中で書かれたが、コックスによれば贗作の可能性がります。
8. 緊急時/うつ病について：3つの部分からなり病気の突然の急速な変化を扱いました。
9. 重要な瞬間について：3つの部分で構成され、ガレノスは、太陽と月の周期と気象が人体にどのように影響するかに焦点を当てました。
10. ヒポクラテスの格言の最初の本に関する3つの解説：ヒポクラテスの本の格言に対して行った解説です。
11. ヒポクラテスの予後に関する3つの解説：ヒポクラテスの見解を説明したものです。
12. 夢の兆候について：夢から体の病気についての情報を得ることが可能であると主張しています。
13. 予後について：医師は各患者を予言する能力がなければならぬと主張しています。
14. 病気とその症状について：病気とその症状に関する彼の研究は英語に翻訳されました。
15. 魂の過ちと情熱について：魂の情熱に関する作品は英語に翻訳されました。

薬の為に書かれた作品

1. 単純な治療法の力について：この作品は11の章で構成されています。第1部では、ガレノスはミネラルウォーターと酢の効果を扱います。第2部では、彼はソフィストの見解に反駁しようとしています。第3部では、ガレノスが使用する薬の種類を決定するために暖かさ、冷たさ、乾燥、湿りについて、どの種類の薬をどの臓器に適用するかを決められると述べました。第4章では、出血を止める薬と調整方法について、第6巻、第7巻、第8巻、第9巻は、薬草療法の効力について説明しています。第10章では、動物性食品から得られる薬物の効力が述べられています。
2. 医薬品について：薬局で使用される250を超える薬種が、アルファベット順にリストされています。

3. 下剤の力について：下剤が適切な気質を引き付け、血液を浄化することを述べました。
4. どの緩下薬をいつ、誰に投与するか：この研究は、いつ、どのような条件下で、誰に下剤を投与するかという問題を扱っています。コックスによれば、この作品はガレノスの作品がオリバシウスによって編集されたと言われています。
5. テリアカTiryakaについて：この作品では、医師がテリアカをどのように準備するか、そしてそれを使用する際に彼が何に注意を払うかという問題が議論されています。
6. テリアカの使用について：コックスによれば、この作品がガレノスのものであるかどうかは疑わしいとのこと。作品では、どのように使用されるかという問題が言及されています。
7. 解毒剤に関する2冊の本：解毒剤が何であることを説明し、体内で発生する悪影響を排除することを述べ、野草、クローバー、カニの爪などから解毒剤を作る方法に触れています。
8. 部位による治療の構成について：それぞれの臓器に特有の病気があり、さまざまな治療法を述べています。
9. 性別による治療法の組み合わせについて：ガレノスはこの本の最初の2つの部分を以前に書いたが、図書が火事で焼け、これらの部分が破壊されたと述べています。
10. 重量と測定について：この作品は、ガレノス時代の医療技術で使用されている重量と測定の単位に関する情報を提供しています。

臨床で使用するために書かれた作品

1. ヒル、うっ血、血管、および擦り傷について：ガレノスは、治療にヒルを何度も使用したことにふれています。
2. 瀉血について：この研究で、ガレノスは静脈から採血する瀉血の実現可能性について論じています。
3. ローマのエラシストラトスに対する瀉血について：瀉血に関するローマのエラシストラトス主義者の見解に反論するために書かれました。
4. 瀉血の割合について：どこから、どのように、どのくらいの量の血液を採取されるか、瀉血に関連するほとんどすべての問題を扱っています。

治療について書かれた作品

1. 病気の治療法について：テサルスの治療に反論を示すために書かれています。
2. グラウコンの治療法：この作品はグラウコンのために書かれました。研究では、

発熱、その種類と原因、およびそれらの治療への応用が議論されています。フナインによってアラビア語に翻訳され、作品のアラビア語写本はスレイマニエ図書館にあります。さらに、この作品はトルコ語に翻訳されています。

3. 重度の病気における食事の割合に関する4つの解説：ガレノスによって書かれたヒポクラテスの作品に関する4つの解説で構成されています。
4. 重度の病気に対するヒポクラテスの食事について：コックスによれば、この作品がガレノスのものであるかどうかは疑わしいが、内容はヒポクラテスの見解に精通している。
5. 簡単に準備できる治療について：医療から遠く離れた人々や旅行した人々が直面する状況の解決策を見つけるために、簡単に準備できる治療方法について書かれています。
6. 簡単に準備できる薬について：名前が示すように、この作品には簡単に準備できる薬のレシピが含まれています。この作品には約150の処方があります。
7. てんかんのある若者への提言：この作品は、てんかんの治療に関する情報で、ガレノスからのアドバイスを求めたカエキリアヌスという人物への手紙です。
8. 霊、霊の支配、邪視による不運について：霊、霊の支配、邪視による不運などの主題が議論されています。
9. 人間性に関する研究の2番目の解説：この作品は、ヒポクラテスの人間性に関する研究に関する解説です。
10. 眼炎（眼）疾患の治療について：目の構造、気質、神経など眼疾患に関する情報と、治療法を扱います。
11. 腎臓病と治療について：この研究は腎臓病とその治療について書かれています。
12. 医師の義務に関するヒポクラテスの論考に関する3つの解説：ヒポクラテスの書物へのガレノスの解説です。
13. ヒポクラテスの骨折に関する3つの解説：骨折とその治療に関するヒポクラテスの見解と解説です。
14. ヒポクラテスの脱臼への4つの解説：前の作品に関連して、脱臼に関するヒポクラテスの見解が含まれています。
15. 結紮の種類について：この研究は、骨折や脱臼に使用される包帯の取り付け方法と方法を扱っています。
16. 手術器具について：この作品は、当時使用されていた手術器具について扱っています。
17. 天球儀の緯度と数学に関連した病気の症状：この研究は、人体に対する天球の影響を扱っています。月の動きが人体に与える影響に触れています。

哲学に関する作品

1. 哲学の歴史：この作品は、道徳哲学と自然哲学の両方の起源、およびソクラテス以前の思想家と哲学の学校の伝統を扱っています。この作品では、神、精神、必要性、運命などの多くの形而上学的問題に触れています。
2. 論理の紹介：この作品では、ガレノスは論理のアリストテレスとストア派の理解を扱い、類推の前提とこれらの前提から結論に到達する方法を調べます。ここではガレノスは注意深い観察に基づいて証拠（正確な知識）からの理論を発展させ、論理を使用して医学的真実を発見します。この作品は英語に翻訳されています。
3. プラトンのティマイオスについての解説：プラトンのティマイオスの医学的部分は、この作品で説明されています。フナインによってアラビア語に翻訳されました。

アレクサンドリアの解説

アレクサンドリアがイスラム教徒に征服される前は、医学教育において重要な拠点として存在していました。当時、医学教育の重要な中心地のひとつであるアレクサンドリアには多くの人が訪れていました（Walbridge）。医学の第一人者であるガレノスもアレクサンドリアに来て医学教育を受けました。ガレノスの作品がその時代の医学部で教えられるようになりました。6世紀、アレクサンドリアの医師は、ガレノスの16の作品のギリシャ語を編集し、医学教育カリキュラムで使用し、医学教育をより簡単に学習できるように、理解できる方法で要約および体系化しました。フナインはこれらの編集物と解説をCevâmiu'l-İskenderâniyyin li-kütübi Câlînúşという名前でアラビア語に翻訳し、これらはイスラム世界でガレノス自身の作品と同じく一般的に知られるようになりました（Walbridge）。これらの作品のアラビア語だけが生き残っています。ガレノスの作品に基づいて作られ、アレクサンドリアの医学教育で教えられた作品は次のとおりです。

1. 医学派について
2. 小さな習得について（医術）
3. 小さな脈拍について
4. グラギュアンの治療法（グラウコンへの治療法）
5. 元素について
6. 気質について
7. 自然の力について
8. 解剖/解剖学について
9. 症状と病気について
10. 大きな心拍について

11. 内臓の病気の診断について
12. 臓器の突然の障害について
13. 危機の時について
14. 熱について
15. 治療の方法について
16. 健康の予防について

アレクサンドリアの医学教育で採用されたカリキュラム

(Ibn Abi Usaybia, Walbridge)

- a) 人文科学：学生は文法、数学、占星術、および薬物の組み合わせを教えられます。
- b) アリストテレスの論理に関する作品
- c) ヒポクラテスの研究
- d) ガレノスの研究

1年生：初心者のための医学派、医術、テウスラスのための脈、グラウコンのための治療法、

2年生：ヒポクラテスによる元素について、気質について、自然の力と初心者のための解剖学について、

3年生：病気とその症状について、

4年生：内臓の病気と大脈拍の診断、

5年生：熱とうつ病の種類、

6年生：治療の方法

7年生：健康の測定

イブンキフティ Ibnul-Kiftiは、彼の作品の中で、エジプトの医師であり哲学者であるアンキラスAnchillusについて述べています。アンキラスは、ガレノスの本を編集して解釈するグループの責任者でした。フナインによると、アンキラスと彼のチームはアレクサンドリア医学校のディレクターでガレノスの本を読んで要約し、学生に提供しました。このチームには、ステファノスStephanus、ゲシウスGesius、アンキラス、Anchillus、マリヌスMarinusが含まれます。これらの4人の医師はアレクサンドリア医師の頂点で、編集物と解説を準備した人々です。(Walbridge)。一方、イブン・ジュールJul IbnCülcülは彼の作品Tabakatu'l-etibbaで、アレクサンドリアに熟練した哲学者のグループが現れ、ガレノスのすべての仕事を説明し、まとめました。(IbnCülcül, Wallbridge)。エルムフタル・ビン・ハサン・ビン・ブトランel-Muhtar b. Haşan b. Butlanは、ガレノスの16の作品を集めて解釈したアレクサンドリア人は、ステファヌスStephanus、カシウスCassius、テオドシウスTheodosius、アキレスタティウス

Achilles Tattius、アンキラスAnchillus、パイラディウスPailadius、ヤヒヤエンナヴィ Yahya en-Nahviであったと述べています。彼らはキリスト教徒でした (Ibn Abi Usaybia、Wallbridge)。

2-3. BERGAMALI GALENOSにおける結語

医学史の第一人者であるガレノスがイスラム教徒と西洋人の両方の医学的理解に影響を与えたことは否定できません。ベルガマで生まれたガレノスの医学と医術について書いた作品は、ベルガマの境界内にとどまらず、世界中に広まりました。ガレノスの医学に関する考えは、彼自身の時代を超えて、後の時代に共鳴しました。ガレノスによって書かれた多くの作品は、彼の死後も読み続けられ、アッバース朝時代に設立されたベイトウリクメでは、シリア語、ギリシャ語、ヒンディー語などの言語で書かれた多くの作品が翻訳者によってアラビア語に翻訳され、アラビア語を話す知識人に提供されました。フナインによってガレノスの作品をアラビア語に翻訳され、イスラム教徒の医学の習得に貢献し、イスラム教徒が医学の科学をより高いレベルに引き上げることを可能にしました。多くのイスラム教徒の医師は、医学に関するガレノスの見解に支えられていました。しかし、イスラム教徒の医師はガレノスを医学の権威として受け入れましたが、彼の見解をすべて受け入れませんでした。たとえば、ゼケリア・エルラジZekeriya er-Raziは、ガレノスの見解に疑問を示すために、Kitābūṣ-ṣūkūkalciCālīnūs (ガレノスの疑いについて) という作品を書き、血液循環の問題について、イブン・ネフィスİbnü'n-Nefisは、血液が右心室から左心室に通過するための秘密の部屋があるというガレノスの見解は間違っていると述べました。このようにイスラム教徒の医師や思想家によって修正され進歩したガレノス医学は、後に中世の西洋の思想家によってアラビア語からラテン語に翻訳されました。ラテン語に移された作品の中には、ファーラービーFārābī、イブン・スィーナーİbn Sīnā、ガザリーGazzālī、イブン・ルシュドİbn Rūṣd、イブン・ハイサムİbnü'l-Ḥaysem、タビベル・ラジtabīp er-Razīなどの哲学者の作品、およびアラビア語に翻訳されたヒポクラテスとガレノスの作品がありました。実際のところ、Cremonah Gerhardクレモナのジェラルドは、ヒポクラテスとガレノスの作品をアラビア語からラテン語に移しました。人類の歴史を通じてさまざまな文化で生み出され発展した知識は、他の文化に移されてきました。知識は生まれた場所にとどまらず、さまざまな手段で他の文明や文化に伝わりました。このように、ガレノスが医学の歴史においてどれほど重要であったかを明確に示しています。

3. 終わりに

以上のように、BERGAMALI GALENOSの中のカレノスの人生と作品、および結語を翻訳しまとめました。カレノスはギリシャ語で作品を書き、それらの作品はその後アラビア語に翻訳され、それがラテン語に翻訳されたという歴史的経緯を経てきています。今までアラビア語圏でのまとまった情報は入手が出来なかったのですが、今回ベルガマ市の作成したトルコ語でイスラム世界から見たカレノスの情報を読むことが出来たことは非常にありがたいことです。また、カレノスの風貌や巡礼者HZであったなど、今までの欧米や日本での通説とは異なることも特徴的です。いずれにしても、カレノスを書いたもの、カレノスについて書かれたもの全てを、読めることを喜ばしく思います。

人名・単語などの解説

1. イブン・アビー・ウサイビア (Ibn Ebi Usaybi'a) 1194年から1203年あるいは69年または1270年) は、13世紀の医学者、歴史学者。ダマスクス生まれ。過去の重要な医学者の伝記を書いたことで知られる。著作の中では、『ウユーン』と略称される著作が最も重要である。これは400人ほどの医師や科学者の伝記を集めたものです。
2. イブン・ジュールジュール İbn Cülcül 10世紀のアンダルシアの医師。
3. イブン・ファティキ İbn Fâtik 古代の哲学者についての彼の作品Muhtârül-hikeで知られる11世紀の学者および政治家。Wafa'al-Mubashshir ibn Fatikとも呼ばれる。
4. ベヒヤキBehyaki ガズナ朝の11世紀の歴史家。歴史の本-iMesudiを著しました。
5. リムノスの封印土 解毒効果があり、感染症の治療に使用される密閉土壌。何千年もの間自然に形成されたこの粘土は、モンモリロナイトとも呼ばれます。
6. キューンKühn 19世紀のドイツの医師。古代の医師の作品の編集者。
7. バフティシュ Buhtîşû 6世紀のアッバース朝時代のネストリウス派のキリスト教徒医師。Cündîşâpur医学校で学んだ。
8. コーパスヒポクラテスCorpus Hippocraticum 約60の早期古代ギリシャの医学作品のコレクション
9. メスウーディー Mesudi 10世紀のアラブ人の歴史家、地理学者。
10. イブヌル・クフティ İbnu'l Kifti 13世紀の文化史学者、政治家。論理学、哲学、数学、天文学、植物学、医学の分野の414人のギリシャ、シリア、イスラムの伝記と作品をアラビア語に翻訳した。
11. ジェマルッディン・アリ・ビン・ユスフ・ビン・イブラヒムCemaluddin Ali b.

- Yusuf b. İbrahim 14世紀のアゼルバイジャンのシャーフイー学派の法学者。
12. コックスCoxe ジョン・レッドマン・コックス1773～1864 黄熱病などの病
気に対する予防接種をした医師。ヒポクラテスとガレノスの著作の翻訳者。
 13. フナイン・イブン・イスハークHunayn ibn 'Ishāq 9世紀にバグダードに置か
れた学術機関である「知恵の館（バイト・アル＝ヒクマ）」で活躍した学者。
 14. トウルケルーキュエルTürker-Küyel 哲学者、研究作家、学者。1927年生まれ。
哲学の歴史を専門とする。
 15. スレイマニエ Süleymaniye図書館 イスタンブール県ファーティヒ市にある
図書館。
 16. アヤソフィア Ayasofya図書館 イスタンブール県ファーティヒ市にある図
書館。
 17. ヒュベイスHubeys 8世紀の朗読とハディースの学者。
 18. テリアカTiryaka ローマ時代に作られた万能の解毒薬。ネロの侍医アンドロマ
コスが66種の薬物を配合して製したといわれる。その後、処方種々は変化し中
国や日本にも底野迦の名で伝わり、「医心方」にも記載がある。
 19. イブンキフティ İBNÜ'İ-KİFTÎ 文化史学者および政治家。
 20. エルムフタル・ビン・ハサン・ビン・ブトランel-Muhtar b. Haşan b. Butlan
11世紀のバグダッド出身のクリスチャン医師。
 21. ゼケリア・エルラジZekeriya er-Razi 10世紀の、ペルシャの錬金術師、化学者、
医師、哲学者。日本ではラーゼスと呼ばれている。様々な科学分野で論文を書き、
書いた本は記録されているだけでも184冊以上。彼はペルシャ、古代ギリシア、イ
ンドの医学にも精通して医学に多くの進歩をもたらした。
 22. イブン・ネフィスİbnü'n-Nefis 13世紀の科学者。ダマスカスで生まれ医師、解
剖学者、生理学者、外科医、眼科医、心理学者、天文学者、宇宙学者、法学者、神
学者、イスラム哲学者、社会学者、小説家、言語学者、歴史家。
 23. ファーラービー Fârâbî 10世紀の哲学者および科学者。また、天文学者、論理
学者、音楽家でもあった。
 24. イブン・シーナー İbn Sînâ アビケンナAvicennaとヨーロッパでは呼ばれる。
ウズベキスタンのブハラで980年に生まれ、最も重要な医師の1人、天文学者、イ
スラムの黄金時代の思想家。臨床医学に必要とされる知識を『医学典範』にまとめ、
ガレノスの理論を継承し、アリストテレスの説いた四大元素説を理論医学に応用し
た。
 25. ガザリー Gazzâlî 11世紀のイスラム神学者。
 26. イブン・ルシュドİbn Rüşd 1126年 コルドバ生まれ。アリストテレスをヨーロ

ッパに再紹介し、政治、宗教、法律、医学、哲学の多くの分野で150以上の作品を書いた。

27. イブン・ハイサム İbnü'l-Heyssem 11世紀の物理学、数学、哲学、天文学者。「現代光学の父」とも呼ばれ、視覚のダイナミクスに多大な貢献をしました。Kitâbel-Manâzir「光学の書」を書いた。
28. ベイトリクメ Beytülhikme 中世のイスラム科学と文化の歴史の中で翻訳と高度な科学的研究所の名前。
29. Cremonah Gerhardクレモナのジェラルド イタリアの学者。12世紀に多くのアラビア語の学術書をラテン語に翻訳した。

参考文献

坂井建雄 ガレノスGalen「全集Opera omnia」日本医史学雑誌 第67巻第4号（2021）413-422

謝辞

本論文を書くにあたり、日本語でベルガマ市発行の「BERGAMALI GALENOS」を紹介することに関してベルガマ市長ハーカン・コシュトゥ氏の快諾を頂きましたことに感謝いたします。また、ベルガマ・パパティアフェスティバル実行委員のアイハン・エルイルマズ氏、サルベル・ベクタシュ氏のご協力をいただきましたことに感謝をいたします。

Bu makaleyi yazarken, Bergama Belediyesi'den BERGAMALI GALENOS'u Japonya'ya tanıtma konusundaki nazik izni için Bergama belediye başkanı sayın Hakan KOŞTU'ya teşekkür etmek istiyorum. Bergama Papatya Festivali yönetim kurulu üyeleri Sayın Ayhan ERYILMAZ ve Sayın Sarper BEKTAŞ'a da işbirliklerinden dolayı teşekkür ederim.